

汚
泥

DRS COAT

白
衣



ART × 下水道

異分野との^あ環から生まれた汚泥染め白衣



下水道は、
生活に必要不可欠な施設でありながら、
当たり前にあるサービスでもあり、
普段はその存在を意識することは少ないかもしれません。
しかし、近年の下水道事業は、

職員の減少・災害対策・施設の老朽化・財源不足等、

様々な課題を抱えています。

24 時間365 日、休むことのできない下水道の運営と課題解決には、
使用料を負担して頂いている方々に
下水道の仕組み・重要性・魅力・可能性に気付いてもらう必要があります。

(株) 日水コンは「アート下水道」（詳細は後述）という取組を通じた、
新たな問題解決・価値創造を目指し、
異分野である女子美術大学との交流を試みました。

本交流で得たものは
“新たな下水道の価値発見”と
“広報・教育活動の新しい形”でした。



ART下水道とは？

下水道にアートシンキングを取り入れようとする取組、我々はこれを
「アート下水道」

と呼ぶことにしました。アートシンキングとは、

“社会に新たな価値を創造するため、
右脳（感性）と左脳（論理）を融合させ、既成概念に捉われず、
創造力をもって感性豊かに考えること”

と定義しています。

芸術、また建築にも精通していたレオナルド・ダ・ヴィンチの
生きたルネッサンス期は0 から1 が生まれる創造性溢れる時代でした。

産業革命期を支えたアイデアは

この時代に出尽くしたと言われており、

これがアートシンキングそのものであったと捉えています。

現代のダ・ヴィンチとまでは言いませんが、
成熟化したこの時代で、社会に新たな価値を創造したいとの思いから
始まった取組がアート下水道です。





×



このアート下水道の取組に共感してくれたのが、“**女子美術大学**”です。1900 年創立、私立美術大学としては最も歴史が長く、これまで数多くの美術家やデザイナー、クリエイターを輩出しています。お互いに何が生まれるかわかっていない、手探りのスタートでした。

体感

取組に賛同して集まってくれた美大生に下水道を体感してもらうため、横浜市の協力を得て管路内・北部水再生センター・汚泥資源化センターを見学しました。全汚泥が再利用されていること等「下水道システムのしっかりとした仕組みにビックリした」という感想もありました。

一方で我々は、美大生の作品の創り方（感性）を体感するため、アトリエを訪問しました。数多くの意見交換を進めるうち、感性で作品を創っていると思っていた彼女たちの頭の中には説明できる論理が備わっていることに気がつきました。我々にとっての新しい発見です。



表現

美術を学ぶ美大生にとって、未体験の下水道は、
好奇心の対象でした。

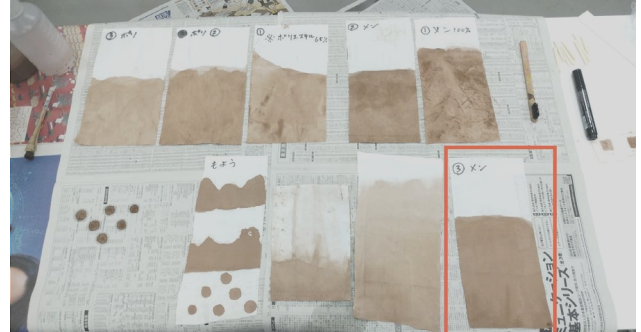
創作意欲を掻き立てられる素材である
下水道をどう料理するのか、

想像もつかない分野への展開は
不安と期待を伴ったチャレンジであったといえます。

様々な体感を踏まえ、
学生たちはそれぞれの専攻にあった表現を考えてくれました。

洋画専攻の学生は、
「循環」をテーマに
絵画を描いてくれることになりました。

また、
ある学生は、下水道汚泥の**焼却灰**を
染料にできるのではないかと考えました。
下水道汚泥は、建設資材・肥料・エネルギーと
様々な形で有効活用されていますが、
下水道従事者では思いもつかない発想です。
しかし、
焼却灰そのままでは、生地をうまく染められません。
焼却灰をきめ細かい粒子まで粉砕する実験を繰り返し、
様々な生地を試した結果、
辿り着いたのが白衣でした。
白衣を対象としたのは、
下水道従事者を“**水のお医者さん**”に見立てた
学生の発想によるものです。



汚 泥 白 衣

DRS COAT



当初、染め上げた色をみて
“うんこ色”と感じた学生も多かったのですが
「処理工程で凝集剤として添加された鉄が酸化し、錆びた色が自然で温かい色を生み出している」と**技術的解説**を加えることで、
より下水道への理解が深まりました。

汚泥の有効利用法として、
身に着ける衣服が対象となったことは、
下水道資源の新たな価値の提案といえます。
美大生にとっては、様々な物質やアイデアが
作品創りの中の原料や源になり得るため、
絵画・造形等の作品へ投影できるよう、
自ら感じる好奇心や刺激を探し続けているようでした。
我々は、美大生に下水道に関する情報を提示し、
その度に**教え、教わる**ことを繰り返しました。
この双方向の知識・技術の交換を丁寧に醸成したことが
汚泥で染めた白衣「ドクターコート」を制作できた
一因と考えています。

**下水道従事者では辿り着けない表現を
異分野の美大生が成し遂げてくれた、と言えます。**



ART下水道から得たもの

1.

『 新たな下水道の価値発見 』

ドクターコートは、循環をテーマにした絵画と共に
下水道展'19 の日水コンブースに展示されました。

その斬新さから、来場者からは驚きの声と共に
多くの質問や感想を頂きました。

下水道資源がアパレル業界に関わる可能性を見いだせたことは、
まさに新たな下水道の価値の発見でした。

この発見が異分野との交流によって生まれたことは、
我々に**新たな下水道の見方**を考えるきっかけを与えてくれました。

2.

『 広報・教育活動の新しい形 』

これまでの広報活動は、下水道業界から住民に向けて
発信したい情報を提供する直線型が主流でした。

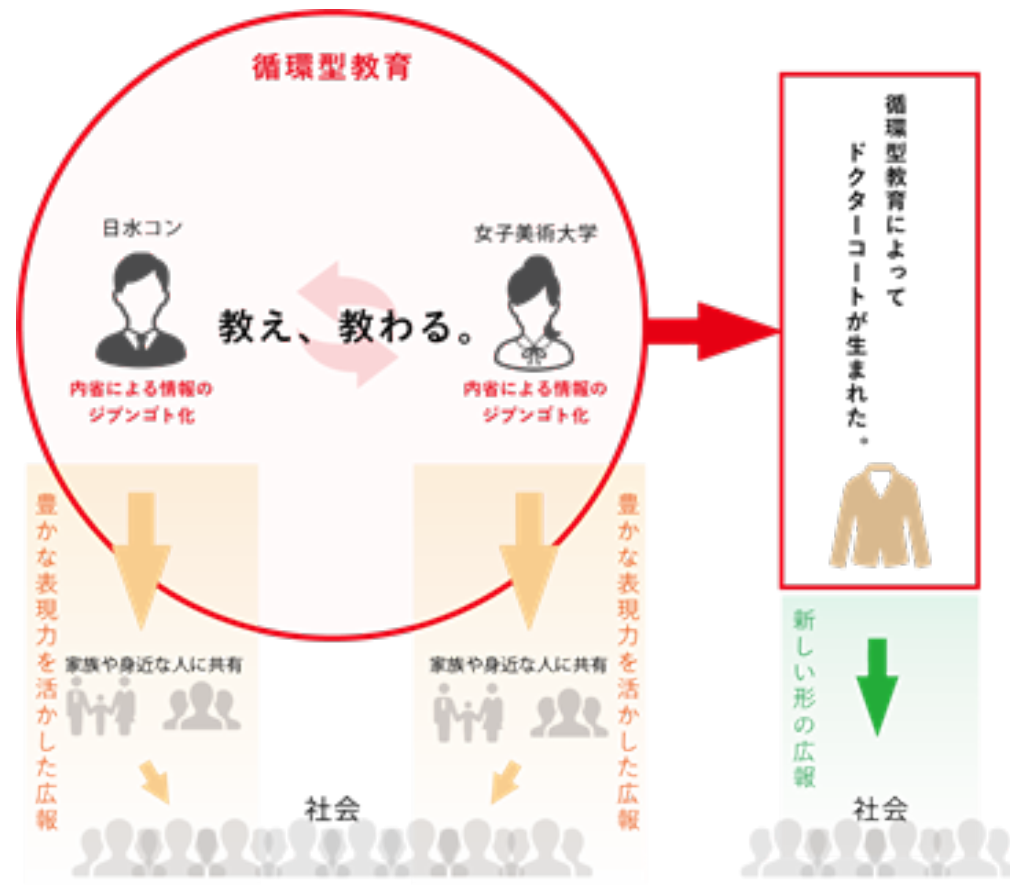
教育も同様、教師が生徒に教える、極端な言い方をすれば、一方通行型といえます。
今回の取組では、我々と異分野の美大生が**教え・教わる**ことを繰り返しました。

その結果、学生たちは下水道に大いに興味を持ち、
重要性や魅力を家族や友人と共有してくれました。

「下水道の仕組みや凄さを知った、汚いイメージがあったが改善すべき」
という意見もありました。

一方、作品の制作過程や豊かな表現方法を学んだ我々は、
美術やデザインの展示会等に足を運ぶようになりました。
お互いがそれぞれの業界の広報隊員になったといえます。

各々が双方向に繋がる人の環、循環を重視することで、
新しい形の広報が見いだせたと感じています。





また、「色々な人とプロジェクトに関わることで、
自分の弱みを認識できた」
というコメントのとおり、
学生たちが**社会との繋がり**を体感する中で
活き活きと自主的に活動していました。
その姿からは、社会の一員としての自覚が育まれていることを感じられ、
指導する先生たちを驚かせました。
このような**循環型広報・教育**を模索出来たことが、
本取組の**最大の成果**であり、お互いの業界にとって
有益な効果をもたらしました。

ART 下水道の今後

アート下水道を通じた異分野交流は、**大きな刺激**となりました。

下水道の循環から**新しい人の環・新しい価値**が生まれる様を体現できた思いです。

もしドクターコートが製品化されれば従来型の広報にはない波及効果が期待できます。

イノベーションは、想像したこともない分野の人々が集う、アートシンキングの場で起きるのではないのでしょうか。

今回の取組から“〇〇×下水道”には多くの可能性があるかと確信しました。

下水道のまだ見ぬ魅力を掘り出すため、これからも好奇心をもってチャレンジを進めます。

新たな価値を創造し、社会に、世の中に驚きと感動を与えられるように…。

to be continued...